

How to K O S O D A T E

子育て

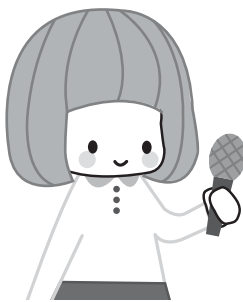
12月号

 volume
33

お母さんと幼稚園のコミュニケーション誌

2010年12月発行

※バックナンバーが必要な方は幼稚園までお申し出ください。



園長先生に インタビュー!

第33回

感動体験を通して

園長 奥村 恵美子

休日に、山中にある陶房に足しげく通っていた時期がありました。ある日、その山道で、10cm以上もある鮮やかな黄緑色の大カマキリを見つけました。この大カマキリを子ども達が見つけたらどんなに驚くだろうか。クラスの子どもの様子を想像すると、どうしても捕まえたいと必死になり、首のところを手をやろうとすると…、大カマを振りあげ、その威嚇にひるんでしまいました。焦っても大きいだけに手が出せません。しかし、逃げようともせず、私とのにらみあいです。何分ぐらいたったのか…思い切って手のひらを下から、静かに差し出してみると、驚いたことに、ゆっくりと手の平に乗ってきたのです。それも、しなやかに優雅な動きで腕から肩へと移動してきたのです。一瞬の出来事に感動が走りました。

翌日、この大カマキリが幼稚園に登場。すかさず見つけた子ども達の驚きの声が恐怖や奇声になり、幼稚園中が大変なさわぎになりました。

私は、昨日の出来事を実感込めて子ども達に語りました。その後、クラスの虫博士と言われている男児が、勇敢にも手の平を大カマキリに近づけているのです。

昨日のように、男児の手の平に乗っていくのを見て、カマキリの習性なのか…と考えながらも人なつっこい大カマキリに感謝しながら勇気ある男児にエールを送りました。

この様子を、息をのむように見いていた子ども達の中から「Aちゃんすごい!怖くないの、痛くないの」と心配そうであるが、皆、興味津々である。男児は得意げに、大きくても怖くないこと、羽の様子、体の割に脚は細いことなどを伝えていました。

この出来事以来、A児を中心にクラスの子ども達と虫との距離は、ぐーんと縮まり、羽をつまんだり、首や尻尾をつかんだりすると、虫が苦痛で威嚇する事を実体験の中で学びました。様々な生き物をありのままに受け入れ、大切に接する心が、思いやりや優しさに繋がり、他者の立場で考えたり、行動したりする心地良い感覚やその意味を幼児なりに感じ、気付いた一日でした。

体験した事は、心に刻まれ、いつまでも記憶に残っていきます。幼児期に大切な事は、人として「生涯生きていくための人格の基礎が培われていく時期」である事を重視し日々の教育の中で、心に響き心に残る体験を豊かにする環境の創造を進めています。

子どもたちのようす

副主任より

楽しい遊びを体験すると、「もう一回したい!」「やってよかった!」という気持ちになります。そんな満足感や達成感を多く味わっていきけるようにしていきます。 副主任 隈元 友美先生



年長組

「友だちの思いを大切に」

様々な経験を積み重ねて、自信をもちはじめています。自分の思いを伝え、友だちの思いを受けとめることを大切にしながら、日々の保育を進めていきます。



年中組

「チャレンジ!!」

年中になった喜びを感じながら、いろいろな活動に積極的に取り組む姿が見られます。新しくできた友だちとも一緒に遊び、様々なことに挑戦しながら充実した園生活を送っています。



年少組

「遊びのパワー!!」

思いぎり遊びを楽しむことで、子ども達の表情も和らぎ、豊かになってきました。一人ひとりの発見やつぶやきを尊重し、遊びを充実させてまいります。





大阪城南女子短期大学 総合保育学科 教授 長谷 雄一 先生

さあみなさん絵本のある子育てをしてみませんか。今回の「How to 子育て」では絵本を取り上げてみようと思います。絵本は0歳～100歳まで楽しめる素晴らしいものです。それではこれから絵本とは何かを考えていきましょう。

1. 絵本の魔法の力

絵本の魅力とは、どこにあるのでしょうか。どんな絵本でもいいのでしょうか。もちろん子どもは、絵本が大好きです。絵本は多くの楽しみ・恵みをもたらします。ただ絵本であれば何でもよいわけではありません。では子どもにとって、良い絵本とはどんな絵本なのかを考えていきたいと思います。

絵本の大切な3要素とは、①絵②言葉③物語り(ストーリー)です。

子どもは、絵本を読んでもらいながら、よく絵を見ています。絵が子どもを引きつけるものでなければいけません。このことで、子どもの美しいものへの感性が育ちます。次に子どもの言葉の発達についても関係があります。良い絵本は、洗練された美しい日本語によってつづられています。子どもは未知の美しい日本語を、親・保育者の声で読まれる物語りの楽しさのせて、身につけていきます。絵本を多く読んでもらっている子どもの言葉の発達が早く、表現が豊かなのは、そのためです。つまり言葉を育むとは、このことを言います。

次に大切なのは、物語りです。物語りが、真に子どもの心の姿と響き合っているかどうかが優れた絵本か、子どもが好きになるかどうかのわかれめです。私たち大人は、今を生きる子どもの、深いところの心に寄り添いが出来るような絵本を選んでいきたいと思っています。

2. 読んであげることの意味

良い絵本を選んでも、子どもにそのまま渡すのではなく、大切なのは大人(親・保育者)が読んであげることです。つまり絵本は、子どもに読んであげることで生命(いのち)のかような本になります。

まず第1に、子どもが本と仲良しになることです。絵本にとって必要な力とは子どもが絵本を読むことで、眼に見えないもの(絵)を見る力(想像力)こそが、今、絵本を楽しみ、将来自分で読めるようになるために必要な力です。これは絵本

を読んでもらうことによって培われます。

第2に生きることを語ることです。人々はどのように語ればよいかわからなくて物語りを生み出しました。それが現代の絵本です。聞く、話す、読む、書くという言葉の力の中で、最も早くに発達するのは、聞く力です。読んでもらうことの意味がここに 있습니다。読み聞かせは、それを親自身(保育者自身)の言葉で子どもに伝えることができます。

次に絵本とは、愛の表現です。子どもは絵本を読んでもらうことによって愛の表現と見ています。

3. 心の土壌を耕すこと

幼児教育の大切な役割は、子どもにお勉強をさせることではありません。近い将来勉強ができるようになるための土壌を、深く耕す時期なのです。

4. 真に学ぶ力を

絵本によって学ぶ力を整理しましょう。ポイントを挙げれば以下ようになります。

- ①言葉の力
- ②言葉をつなげて新しいものを組み立てる力
- ③お話を集中して聞く力
- ④抽象的な思考力
- ⑤活字や本への親近感
- ⑥知的な好奇心

5. その他

子どもへの動機づけも重要です。また家庭での静かな時間を作り、その中で親子の絆を深めていくことが大切です。絵本は大切な役割を果たします。是非絵本のある子育てをして欲しいと思います。

次号で実際に絵本の意義・役割を考え、良い絵本の選び方について述べたいと思います。

幼稚園からのお知らせ

クリスマス会

日時 12月8日(水)

10:30~11:30(開場10:00)

場所 幼稚園1階 遊戯室(変更の場合は4階 アリーナ)

内容 短大生による劇やハンドベルなどの出し物

※ご来園の際はセーフティーカード・上履きをお忘れなくご持参ください。



城南短大附属幼稚園

JONAN

〒546-0013 大阪市東住吉区湯里6丁目4-26

入園案内をご希望の方は随時お申し出ください。

TEL.06-6702-5200 FAX.06-6702-5220